



萌 木

6 月 号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校 長 山 田 勝

令和6年6月12日発行

人を〇〇する言葉

校長 山田 勝

先日実施しました体育祭におきましては、多数の保護者の皆様にご参観・ご声援いただきました。前日までの天候の影響で実施が危ぶまれましたが、前日準備や当日も早朝からの体育実行委員をはじめ多くの係生徒の協力で、計画通り実施することができました。また、PTAの皆様には受付と自転車整理等お手伝いをしていただき、ありがとうございました。

近隣の皆様のご理解を合わせ、生徒たちも競技に集中し力を発揮できる環境ができました。グラウンドコンディションはあまりよくありませんでしたが、その中で力を合わせ競技に取り組む様子をご覧いただけたことと思います。今後とも共に生徒の成長の見守りをお願いします。

本校ではこの4月から毎週木曜日の朝学活時に「朝トーク」という取り組みを始めました。前日帰りにお題が示され、1対1または4人グループでその題に沿った会話をする時間です。例えば「朝ごはんは和食？洋食？」といったお題に沿って3分間グループで話します。意外と3分間は長く、会話が途切れてしまうこともあります。

朝トークの目的は「話すこと」です。自分の考えを言葉に表し相手に伝えることで、自分の思考を定着させるねらいと、このクラスの仲間となら間違えても安心して話ができるということを実感して、学びに向かう場を獲得することもねらいとしています。一人一人に有効な取り組みとなるよう、精査し改善しながら進めていきたいとします。体育祭に向けての取り組みもクラスの仲間と話すことを通して、安心して活動できる場を作ることに繋げることができたのではないかと考えています。

さて、朝トークで育むことができるのは言語のうち、「話し言葉」を通して培われる部分です。「書き言葉」に関わるここでは、まだまだ課題解決には繋がっていません。

「話し言葉」でコミュニケーションをとるときは、対面している利点をいかして言葉の強弱や表情・身振りなどで、細かいニュアンスも伝えやすくなります。しかし、それも多数相手に同時に伝えるとなるとハードルが上がってきます。

「書き言葉」の利点は、即時性は少ない代わりにいつでもだれにでも届けられる、というところです。誰もが受け止めて感じることができそうですが、言葉のニュアンスなどは受け取り手次第、となってしまいます。

SNSのやり取りでも、1対1の時でさえ表現に気を付ける必要がありますが、まだ受け取り手の顔を想像することで誤解を防ぐことが多くあります。しかし、グループラインでは、だれか一人を想定した言葉を書き込むと、違う解釈をされる可能性が高くなります。

せっかくの言葉が、鋭利な刃をもつものになる可能性すらあります。書き言葉で自分の気持ちを正確に伝えることはむずかしいからこそ、多数に対して発信する言葉にはよほど気を付けなければなりません。伝えようとしている全員の顔を思い浮かべることが、少しは正確さを担保してくれることになるかもしれません。

私たちヒトが文化を持ち社会を形成することができるようになるカギが「言葉」にあるのならば、よい社会になるよう活用していきたいとします。私たちは人を勇気づける言葉、人を励ます言葉、人を温かくする言葉を使い、人を傷つける言葉、人を貶める言葉は使いたくないはずです。ただ、一つの言葉がどちらの面も持ってしまう可能性があることを意識して生活できる、そのような七中生に育ってほしいと思います。